

令和7年度鹿児島学力・学習状況調査の結果について

令和8年1月13日～21日の期間に実施された「鹿児島学力・学習状況調査」の結果をお知らせいたします。この調査は、鹿児島県が全国に先駆けて、C B T方式（コンピューター・ベースド・テスト＝紙と鉛筆を使用せず、1人1台端末を使用して、テストを行う方式）で実施されました。

本市の結果は、下記の表のとおりです。小学校（５年生）は、４教科とも県平均を下回りました。中学校は、１年生の国語、算数、理科、英語と、２年生の国語が県平均を上回る結果となりましたが、両学年とも社会に課題がみられました。

1 令和7年度鹿児島学力・学習状況調査の県及び本市の平均正答率

		県平均以上				
		国語	社会	算数	理科	英語
小5	南九州市	48.9	48.8	35.4	50.4	
	鹿児島県	51.7	55.4	43.0	58.7	
中1	南九州市	60.8	49.6	49.0	53.2	60.8
	鹿児島県	59.4	49.7	47.5	50.1	60.5
中2	南九州市	52.9	53.2	33.8	46.9	40.7
	鹿児島県	52.0	55.3	36.9	48.2	44.8

2 これからも学力向上が図られるために

各学校では、校内における研究授業や研究公開などを通して、子供たちの「分かった」「できた」があふれる「学習者主体の授業」作りに努めています。また、今、求められる学力を見据えながら、1人1台端末を使って、思考力・判断力・表現力を高めています。

さらに、長文や複数の資料から問題の意図を読み取る演習問題に継続的に取り組んでいます。

今後も引き続き、教育委員会と学校が連携しながら学力向上に取り組んでまいります。